

平成二十七年九月二十六日（第四土曜） 午後二時開演

於 南山学園講堂

【常盤会主催 母校支援イベント】

第一部

ワークショップ

「狂言解体新書」

能楽師和泉流狂言方 十四世 野村又三郎（S42卒業生）

狂言 千

鳥

シテ／太郎冠者

野村又三郎

アド／主

野村

信朗

アド／酒屋の亭主

松田

高義

第二部

アフタートーク

「私と南山学園」

過去・現在・未来

「あらすじ」

和泉流 千

鳥 (ちどり)

明日の地元の祭礼に際して、支払いの滞っている酒屋で、またもツケで酒を買って来るよう命じられた太郎冠者は、話好きの酒屋の亭主を相手に、口八丁手八丁で何とか酒を持ち去ろうと悪戦苦闘します。

現在でも愛知県津島市で賑々と受け継がれている「津島祭（天王祭）」が話題の中心となり、当時の文化・民俗・習慣などが垣間見られる「太郎冠者物」と呼ばれる作品群の中の代表的な狂言の一つです。

なお、主人と太郎冠者との在り方は、現代における雇用関係とは異なり、いわゆる「御恩と奉公」という従属関係にある為に、主命に背けない召使いの立場と、気心の知れている酒屋の亭主を欺かなければならない心情との谷間で悪戦苦闘する太郎冠者の姿が見どころです。